

この号の内容

特集：平成25年度全国医師会勤務医部会連絡協議会
メインテーマ『勤務医の実態とその環境改善－全医師の協働にむけて』

- ① 日本医師会勤務医委員会臨床研修医部会 in 岡山
- ② 特別講演1「日本医師会の直面する課題」
特別講演2「日本の医療をめぐる課題：チーム医療を中心に」
- ③ パネルディスカッション「様々な勤務医の実態とその環境改善を目指して」
フォーラム「岡山からの発信－地域医療人の育成」
- ④ 岡山宣言



岡山県医師会

URL <http://www.okayama.med.or.jp/index.html>E-mail oma@po.okayama.med.or.jp

特集：平成25年度 全国医師会勤務医部会連絡協議会 メインテーマ『勤務医の実態とその環境改善－全医師の協働にむけて』

勤務医の実態とその環境改善を探る平成25年度の全国医師会勤務医部会連絡協議会（日本医師会主催、岡山県医師会担当）が11月9日（土）岡山市のホテルグランヴィア岡山で全国の勤務医ら約400人が参加して開催されました。講演のほか、パネルディスカッション「様々な勤務医の実態とその環境改善を目指して」では岡山県内の医療施設の医師から現場の厳しい状況が報告されました。「岡山からの発信－地域医療人の育成」をテーマにしたフォーラムも行われ、最後に、労働基準法を遵守できる勤務体制の整備や大学病院医師の医療職化などを謳った「岡山宣言」を採択して終了しました。

日本医師会勤務医委員会臨床研修医部会 in 岡山

平成25年度 全国医師会勤務医部会連絡協議会に先立ち、小森 貴日本医師会常任理事、泉 良平日本医師会勤務医部会委員長、清水信義勤務医部会委員／岡山県医師会副会長と岡山県内の研修指定病院で臨床研修をしている9名の研修医が対談を行いました。研修医の皆さんに対談を終えた感想を聞きました。

○岡山医療センター 岡上昇太郎 先生（研修2年目）

岡山市内の病院の先生方と話せてよかったです。話し合う議題のようなものを事前に教えていただくと、他の研修医の意見も持ち込めるので、よいかと思います。今日は良い機会を設けていただいていたので、ありがとうございました。

○岡山労災病院 杉本 龍馬 先生（研修2年目）

他の病院で研修している一年目、二年目の先生が、どのような研修をし、どのような事を考えているか、ということを知る機会がありませんので、非常に良い経験となった。

○岡山市立市民病院 比森 千博 先生（研修1年目）

今回参加させていただき、様々な病院の先生方と議論したり、アドバイスまで頂き、大変勉強になりました。他の研修病院でのお話を聞かせて頂き、新たな発見もありました。様々な病院の先生方が集まる機会が無ければ、できないような議論ができたと思います。今回出た意見が将来少しでも反映して頂けたら有難いです。楽しく議論ができました。ありがとうございました。

○岡山大学病院 原 尚史 先生（研修2年目）

今回の会に参加できて非常に刺激になりましたし、今後も同様の会があれば是非参加させて頂きたいと思う会でした。将来の研修システムに興味のある学生も最近では増えてきていると思うので、学生にも意見交換できる場があれば尚良いと思いました。

○岡山赤十字病院 戸田聡一郎 先生（研修1年目）

今日は他の病院に勤めている先生方のお話を聞いてとても参考になりました。手技のことは僕もまだまだ不安があったので、同じように皆さんも同じように不安を感じていたので、心が楽になりました。今後研修を続けると思うところがどんどん出てくると思うので、またこのような会があればぜひまた参加させて下さい。

○岡山済生会総合病院

松前 洋先生（研修2年目）

今回のような会には初めて参加させて頂き、各々の研修医が様々な考えを持っているようで大変興味深い集まりでした。

医師として自身のキャリアアップを目指していかねばならない中、それに加えて医療の未来、勤務医のあり方について考えて下さる方々がおられ、今後の研修医制度のあり方について希望が持てるような感じました。

○倉敷中央病院 蓮尾 真美 先生（研修2年目）

普段は研修制度についてしっかり話し合う機会がなかなかなかったので、色々な病院の方とお話ができて面白かったです。感想としては、どこの病院の研修医も同じような悩み・不満があるのだな、と思いました。病院内でも頻繁にこのような機会が設けられてもよいのではないかと思います。



○川崎医科大学附属病院

時岡 峻三 先生（研修2年目）

今回お話を聞いて、今まで自分達、病院内で思っていたり、話していた不満や悩みを岡山県内の研修医の先生方も同様に感じていた事に安心感を覚えました。自院以外の研修医システムを初めて詳細にきける今回の会は、ぜひ今後もこのような機会を作ってもらえると幸いです。

○津山中央病院 高橋 達也 先生（研修2年目）

色々な研修医や指導される立場の先生の意見が聞けたのは興味深かったし、楽しかった。ただ、表面的な話しか聞けなかった印象なので、小グループずつのディスカッションの方がよいように感じた。今日はありがとうございました。

特別講演 1

「日本医師会の直面する課題」

日本医師会副会長 今村 聡



勤務医の労働環境改善には地域医療の再興が喫緊の課題である。地域医療の再生は、地域の実情に応じた医療供給体制の構築が必要であり、一律のトップダウン方式からボトムアップ型にすることが必要だ。かかりつけ医の社会的機能と総合的診療能力の強化とともに地域医師会がかかりつけ医をサポートする役割が大切と考える。

日本医師会としては厚労省が2014年度予算概算要求に盛り込んだ医療機関の勤務環境改善を総合的に支援する「医療勤務改善支援センター（仮称）」を各都道府県に設置することを提案したい。医師不足の病院に対し医師派遣調整をする「地域医療支援センター」との2事業に医師会が関与することで効果的な問題解消に取り組むことができる。これらの事業をリンクさせることで、医療機関が環境改善に取り組んだにもかかわらず、それでも医師が不足するなら、地域医療センターの医師派遣機能でその医療機関に優先的に医師を派遣できるなどのメリットがある。

日医としては、行政との連携を密にしながら健康支援と労働環境の改善に取り組んでいる。また、臨床研究生及び医学生に対する支援策の一例として岡山県医師会がやっている「研修医会員登録制度」を紹介しておく。登録者数は125人で全国一だ。

最後に、我が国の医療が直面する様々な課題の解決には、国や行政の医療政策を正しい方向に導くための強い力が必要だ。その役割を果たすのは日本医師会であり、多くの勤務医の先生方の医師会活動への参画が医療政策構築へ必要不可欠であり、そのためにも日医は、今できることを一歩ずつ着実に実行する。

特別講演 2

「日本の医療をめぐる課題：チーム医療を中心に」

自治医科大学 学長 永井良三



医療界は医療関連法の整備が進められている。日本は米国のような市場原理主義でもなく、西欧のように政府の強制力に改革もない。当面する医療問題の状況の変化にあった日本独自の対応が迫られている。

従来は日本の医療は広く薄い医療体制であったが、これからは医療現場における役割分担と連携による患者のための医療「チーム医療」が重要になる。

現在の日本はこれまでの医療専門化と高度化に伴い、医療提供体制にひずみが生じている。医師が足りないと言われていた理由の1つであり同感する。医師不足のため病院勤務医に多大な負担を生じているのである。では勤務のシステムに何か問題があるのではないだろうか。外科のチームを例にとってみると、チームを作るには役割分担と相互連携が必要である。前後の医行為を他の医療職が分担することに、医師不足の解決にもつながる。すでに米国では Osteopathist、Physician Assistant (PA)、Nurse practitionerが医療を支えている。市場原理主義を全て受け入れなくても何か少し取り入れてもよいのではないか。

看護師の特定医行為については、絶対的医行為とのグレーゾーンがあり医療事故につながりかねないので、状況によってケースバイケースである。我が国の法改正へは慎重論もあるので、一つ一つ解決していくべきだ。

パネルディスカッション&フォーラム



パネルディスカッション

「様々な勤務医の実態と
その環境改善を目指して」

1. 大学病院における勤務医の実態 —大学病院から—

岡山大学病院医療情報部・経営戦略支援部教授 合地 明

岡山大学病院も新臨床研修制度の導入をきっかけに、診療科各医局では教育、臨床および研究という大学病院としての責務を果たすために少数精鋭主義で医局運営をせざるを得ない状況である。大学職員の定数性の中で正職員の増員が期待できないため、職務を担う医師たちは疲弊しているのが現状である。究極の医師不足は大学病院にある。

2. 国立病院機構における勤務医の実態 ～岡山医療センターでの現状と
取り組みを踏まえて～ —公的病院から—

独立行政法人国立病院機構岡山医療センター副院長 佐藤 利雄

独立行政法人組織（公務員型）であり、国家公務員に準ずる労働条件で、業務上の制約が多い。公的病院としての高度医療の提供と社会貢献が医師のモチベーションの源であるが、医師としての基本的倫理観、使命観だけに頼っている現状でよいのかという課題がある。

3. 勤務医の光と影 ～勤務医は何を求め、病院はどう応えるべきか～
—大規模私的病院から—

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院糖尿病内科主任部長 松岡 孝

全医師を対象にアンケート調査を行った（回収率75.8%）が、約70%の医師が、仕事量、内容、給与に満足しているが、まだ、医師の自らの研鑽目的や医師としての使命感に頼って業務をこなしているところがある。今後、30歳代（医員、副医長、医長）の過重労働の軽減、当直システムの見直し、時間外勤務の削減などに取り組んでいきたい。

4. 岡山市立市民病院における勤務医の実態とその環境改善に対する取
組み —自治体病院から—

総合病院岡山市立市民病院副院長 今城 健二

細かい当直シフト、短時間雇用も含めた育児中の女性医師の雇用促進、医師事務作業補助者の増員、医療現場の暴言・暴力対策として警察OBの巡回など勤務医の環境改善への取り組みを行っている。勤務環境改善の実績が残せることが何よりも重要であり、それができないのは管理職の怠慢であると考えている。

5. 人口過疎地における取り組み —山間部の中小病院から—

社会医療法人緑社会 金田病院理事長 金田 道弘

非常勤医師の応援、医師事務作業補助者等医局秘書の常在など勤務医の疲弊を防ぐ工夫をしている。地域の病院間で当直医等の情報を共有し迅速かつ的確な救急搬送が行えるようにしている。地域の实情に応じた医療提供体制の再構築が急務であり、競争より協調が必要である。

フォーラム

「岡山からの発信
—地域医療人の育成」

1. 日本の医療を飛躍させる医師育成プランのグランドデザイン

岡山大学医学教育リノベーションセンター准教授 山根 正修

現状では医学部卒業時の医師としての態度や技能のレベルは不十分である。将来的には大学、基幹病院、地域医療施設が一体となった医師育成プログラムと生涯教育体制の確立が必要である。岡山大学では関連病院とともに外科医育成プログラムを組み、質の高い育成プログラムを提供しようとしている。

2. 良い医師をみんなで育てる

NPO法人岡山医師研修支援機構 理事長 糸島 達也

NPO法人岡山医師研修支援機構は、2006年に医療人材育成への思いを共有する162の医療機関と、大学病院などの医育機関が協力し発足した。当機構の主な活動は、マッチング試験、初期・後期研修プログラムの他、転職・復職などに関する様々な情報を会員に提供することである。多彩な職種・職場から集まって、より良い地域医療のあり方について様々な知識の共有と活発な意見交換も行なっている。

3. 地域医療におけるヒトの育成

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座教授

佐藤 勝

医学教育リソースの提供と地域連携ネットワークの強化によって医療人の生涯教育とキャリア支援を実践し、地域の医療力のさらなる向上に貢献する。学生教育、研修医教育、地域医療支援、女性医療人支援を四つの柱として地域全体の暖かい支えと熱意を持った医療人教育を地域医療再生の鍵としたい。

4. 女性がいきいきと働き地域貢献を果たす仕組みづくり

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

医療人キャリアセンターMUSCATセンター長 片岡 仁美

文部科学省の平成19年度「社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム（医療人GP）」に選定され、岡山MUSCAT（Medical professions and Undergraduates Support and Care Attractive Women's Team）を立ち上げ、女性医師の臨床定着をめざしてサポートネットワークを作った。平成20年度より岡山大学病院に女性支援枠を導入し、大学病院に37名・地域の病院に5名が復職（H20-21年度までの累積）、地域の協力医療機関48施設となった。

5. 岡山県医師会の活動

岡山県医師会理事 神崎 寛子

次世代育成事業として平成23年度岡山県医師会研修医登録会員制度を開始、平成25年度「WELCOME研修医の会」をはじめ開催した。女性医師支援活動として岡山県医師会女性医師支援コーナーの開設、保育支援事業等を行っている。Doctor's Career Café in OKAYAMAは子育て中の女性医師、医学生と対象を絞り、小規模な会を数多く行っている。

岡山県医師会ソーシャルネットワークサービス「プラタナスの木陰」も開設した。

岡山宣言

診療科による医師の偏在や地域での医師不足は、勤務医の不足によるものが大きい。診療報酬による勤務医の負担軽減など、国としての勤務医の環境改善の施策も進められているが、それにも拘わらず勤務医の置かれている状況は依然として厳しい。

現状では、長時間の時間外勤務や、日勤に次ぐ直直そして翌日勤務などの過酷な状況があり、また大学病院では医師は教員として雇用され医療職として処遇されていない。さらに、勤務医が医師本来の業務に専念できるチーム医療が進まず、現政権下で最も重要視されている政策としての女性の活用についても、増加する女性医師の就労支援のための諸施策は十分でない。そして、これからの医療を担う勤務医は、幅広く多様なプログラムで育成して行かなければならない。

勤務医の環境改善により、多くの医師を医療機関に確保し、我が国の疲弊した医療を正常化することは、急性期医療のみならず医療体制全般の改善に大きく貢献し、勤務医と開業医との協働も一層進むものと考えられる。

国はこのような実態を良く理解し、その環境改善に努めるよう次のことを強く要望する。

- 一、労働基準法を遵守できる医師の勤務体制の整備
- 一、教育職である大学病院医師の医療職化
- 一、多職種との協働により医師業務に専念できるチーム医療の推進
- 一、女性医師の増加に対応した男女共同参画の推進と就労支援
- 一、多様なプログラムでこれからの医療を担う医師をみんなで育てる

平成 25 年 11 月 9 日

全国医師会勤務医部会連絡協議会・岡山



女性医師の協力を得て、懇親会でのアトラクションです。
(Hau'oli's Masako Aketa Hula Studio の皆さんと)

第12回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

第10回岡山ビジョンナ会講演会

●日時：平成26年1月11日(土) 16:45～19:00

●場所：ホテルグランヴィア岡山 4F フェニックス

●プログラム：

■特別講演Ⅰ

「眼形成疾患の基本」～子持ち女医が仕事を続けていくために～

北海道大学大学院医学研究科眼科学分野 助教 野田 実香 先生

■特別講演Ⅱ

「子どもたちに夢を！晴れの国・岡山からJリーグへ！」

株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ 代表取締役 木村 正明 先生

お知らせ

学会出席時に託児施設をご利用下さい

岡山駅前の託児施設に学会出席中の託児を特別料金でお願いしています。利用

には岡山県医師会保育支援事業への申し込みと託児施設への事前予約が必要です。詳しくは岡山県医師会へお問い合わせ下さい。

岡山県医師会主催の教育講座等への出席の際の会場での無料託児は従来どおり行っております。ご利用下さい。

詳細は <http://www.okayama.med.or.jp/topcontents/joseishi/youkou.html>

編集後記

寒さが一気に増し、紅葉が冴え、美しい錦秋を迎えています。

本号は11月9日に岡山で開催された全国医師会勤務医部会連絡協議会の特集号です。「勤務医の実態とその環境改善 ―全医師の協働にむけて」をメインテーマに今村 聡日本医師会副会長、永井良三自治医科大学学長の特別講演、パネルディスカッション「様々な勤務医の実態とその環境改善を目指して」やフォーラム「岡山からの発信 ―地域医療人の育成」が行われました。そして、勤務医の就労環境改善を求めて岡山宣言が採択されました。

また、前日には日本医師会勤務医部会の先生方と岡山県内の研修医の会談も企画されましたので、出席者の感想を掲載しました。会談の中で彼らは研修診療科をかなり自由に選べるので総じて満足しているけれども、病院によって研修システムの整っているところとそうでないところがあり、指導内容に差があると臨床研修について意見を述べたそうです。

岡山県医師会では岡山大学、川崎医科大学、NPO法人岡山医師研修支援機構、岡山県地域医療支援センターとともに「みんなでよい医師を育てたい」と頑張っています。Doctor's Career Café in OKAYAMAをはじめとする我々の企画への皆様の参加をお待ちしています。

(神崎)